

2024年6月2日 聖霊降臨後第二主日礼拝説教 「神の子として生きよ」(申命記5章12～15節)

○申命記5章1～5節について

神は、ご自身の民をエジプトから連れ出された後、すぐに「ホレブ」(2節)で十戒を授けられた。けれども神の民は御声に聞き従わず、四十年もの間、荒れ野で彷徨い続けた。

☞約束の地に導き入れる前、「イスラエルよ、聞け」(1節)と神は呼びかけ、民が十戒を守ることを再び命じられた。

「主はこの契約(十戒)を我々の先祖と結ばれたのではなく、今ここに生きている我々すべてと結ばれた。」(3節)

*契約：従う人々に、神の恵みと幸いが施される戒め

☆このとき、神は、ご自身の民と改めて契約を結び直し、十戒を重んじる者に、よき報いを与えようと願われた。

※いまでも神は、十戒に応える〈わたしたち〉を喜ばれる。

今日のみことば：申命記5章12節

「安息日あんそくびを守ってこれを聖別せいべつせよ。あなたの神、主かみが命しゆじられたとおりに。」

*聖別：(～を)他と別にする、(神のものとして)取っておく

☆神の定められた安息日は、他の六日と違って、民が仕事を休んで御声に聞き、〈みわざ〉を思い出すため与えられた。

○申命記5章15節のみことば

「主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために…安息日を守るよう命じられた」

*思い起こす：(神との)繋がりを心に留めておく

☞安息日は、神の民がエジプトからの救いを覚えて、神を畏れ、〈みことば〉に聞き従う心が整えられる日だった。

問：安息日となる礼拝や集会で、なにを思い返すのか？

※御声に聞き、十字架、よみがえりによって救われたことを心に刻み、神を敬って、赦しに生かされる命を受けよ。